

## 精神科医の思うこと⑫

### 「予診票」

松村 奈奈子

病院を初めて受診するとき、受付で必ず記入させられる予診票。

困っている症状やこれまでの経過などを書く予診票、だれでも一度は記入したが事あると思います。精神科でも病院ごとにいろんな書式がありますが、症状以外に、家族の構成や精神科の受診歴などをたずねる項目などもあり、精神科は細かく聞くタイプも多いです。

私はできるだけ余白の多いタイプが好きです。フリースペースを設けることで、さらに患者さんの事がわかる気がするからです。

そして、できるだけ本人に記入してもらうよう受付に指示し、診察前に「熟読」します。予診票を見ただけである程度、職業やお人柄まで、会う前に想像できるからです。読みながら、どう診察をどう進めるかをイメージしたりします。

そう、そんな感じで「予診票」には思う事があるので、今回のテーマは予診票。

たとえば、予診票の余白いっぱい詳細に箇条書きの文章を書きこむ患者さん。元校長先生や税理士や経理の人に多かったです。きちんとした文章できちんと伝えなくては

いけないって使命をおびたお仕事なんですね。

そして「看護婦さんに見られたくないから書きませんっ」とほぼ白紙で出す人。これは、身近な人に裏切られたりして、人を信じるのが不器用な患者さんの特徴かな。私に対してもなんだか身構えて診察が始まります。

会社でもやり手のエリートサラリーマンは、予診票の記入も上手。こちらに理解しやすいようにコンパクトに記入して、診察の中で上手に詳細を補足されます。ああこんな感じで、仕事も上手にこなしてるんだなって思わせてくれます。

見るのは文章の書き方や内容ですが、筆圧や文字サイズ、バランスなども含めて、患者さんを表しているなあといつも思います。もちろん、うつ病の患者さんは、なんとなく元気がない予診票です。

でも、1番気を付けているのは、予診票の漢字の使い方や文章の構成具合から、ある程度の知的能力も推測する事です。もちろん診察での質問の理解や返答の内容でも再確認しますが、患者さんにどんな言葉を使って説明したら一番わかってもらえるかな？と考えつつ予診票を見ています。

それはむかしむかし、痛感させられるエピソードをいくつか聞いたからです。糖尿病専門内科の大学の先輩から「農家の奥さんなんだけど、なんと説明しても理解してくれない。いつも「ハイハイ」と笑顔で返事するけど・・・いったいなんでいつも血糖コントロールが悪いのか」「ほとほと困ってる」とお悩み相談。また、小児科の先生が「なんと説明しても夜間救急外来に頻回に子どもを連れて来る夫婦がいて困る。別に救急で受診しなくていいレベルなのに」とちょっと怒った口調で話しているのも時々聞きました。

いずれも「もしかしたら、軽い知的障害の患者さんじゃないかな」って話しました。「いやいや、農作業はしてるみたい」「子育てしているのに？」と逆に質問されちゃいましたが、療育手帳の交付基準である知的障害の判定は、皆さんご存知のとおり、12歳くらいの理解能力が困難な場合を基準としています。社会では障害の意識はなく生活している人もおられます。

逆の立場で、診察すると見えてくるものがあります。軽度知的障害の患者さんの診察中に「お薬の飲み忘れある？」と聞くと「はい、いつも薬は残っています」と笑って話し「内科の先生はその事を知ってる？」と聞くと、たいがい「言ってませーん」てな会話になる事もあります。それではお薬が十分効かないですよ。なかなか薬の飲み忘れの怖さを理解するのは難しいところもあるのかもしれない。

また、子育て中の頑張ってる知的障害のカップルには、小児科の救急に「よく行く？」「小児科の先生に怒られたりしてない？」と聞いてみることにしています。「だって不安なんで、つい病院に相談に行っちゃいます」「時々、先生に怒られたりしてます」と夫婦は笑って答えます。子どもの病気はよくわからないし、とりあえず病院に行っちゃいたくなりますよね。

もちろん、いずれもその後はヘルパーさんや支援センターに医療機関との間に入って助けてもらうと、安定するのですが、現場ではいまでもよく体験するエピソードです。

そして私自身も、外来診療の中で予診票で「はっ」とさせられる事はよくあります。中学卒業後に引きこもりになっている男の子。どの職場でも周囲に適応できず、職を転々としてうつ状態になった男性。いずれも予診票の文章はまとまりなく、文字は平仮名が中心で誤字もあります。「もしかしたら知的障害があるかも」と発達検査をして

もらって「おー、そうだったか」となりました。短時間の診察で話しているだけでは、軽度の知的障害は見逃してしまいますが、文章や文字使いで気づかされる事は多いです。彼らもまた、予診票が無ければ私も見逃していたかもしれません。

そんな私が大事に思う予診票ですが、数年前から内科の先生などから「予診票をタブレットにしたよ。電子カルテに転送出来て便利」「本当のペーパーレスだよ」と自慢げに話しているのを聞くようになりました。むむっ、心配。テキストにタブレットの回答ボタンを押して、受診してしまう患者さんがいるんじゃないかと。それでは患者さんにどんな言葉で説明したらよいか、わからないんじゃないかと思います。

IT化の進む世の中、その中で見えなくなってしまうものがあるのでは！と、杞憂するオバサンです。